

# 私たちのシュウカツ

安城特別

支援学校の1年

## 卒業 ①

「みんななどのお別れがとても悲しい／一緒にいれると幸せで／ずっと一緒にいれると思ってた。」

卒業式を終え、在校生や教員から「おめでとう」の声が掛かる花道に、温かなメロディーと歌声が流れた。高等部三年五、六組の生徒二十人が家族や友人への感謝の思いを紡いで作った「ありがとう／あなたに贈る歌」だ。

昨年六月、学校は再開したが、校内での新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、音楽の授業で歌ったり楽器を演奏したりすることは難しかった。音楽担当の今井美早紀教諭は生徒たちに「皆で歌を作らない？」

と提案した。楽しかったこと、うれしかったこと、悲しかったこと。全員がフレーズとメロディーを出し合った。

「迷惑掛けてごめんなさい」「僕、こんな人間でごめんさい」。多くの生徒が書いてきた「ごめんなさい」という言葉が、今井教諭の胸に刺さった。「できないうちが多い」と悩み、他者からの心ない言葉に傷ついたこともあるのだらう」と感じた。

一方で、たくさん「ありがとう」も並んだ。「生



花道を歩いて別れを惜しむ生徒たち＝いずれも安城市の安城特別支援学校で

りかどう」も並んだ。「生」  
りかどう」「たくさん愛し



卒業を喜ぶ高等部3年生の生徒ら

てくれてありがとう」

普段は口数が少なく、感情を表現するのが苦手な生徒たちも含め、歌詞には率直な思いがあふれていた。「言いたい思いを普段、の

み込んでいた生徒もいるんだと気付かされた」と今井教諭。「生徒たちが抱えるごめんなさいと、ありがとうを歌に込めて伝えよう」。今井教諭が全員の言葉とメロディーをつなぎ合わせ、歌が出来上がった。

就職活動を乗り越え、歩む道を決めた生徒たち。それぞれが踏み出す世界では、これまで以上にいろいろな経験をするかもしれない。くじけそうになることもきつとある。「そんな時、この歌が自分への応援歌として、心の支えになってくれれば」と今井教諭は願う。「壁にぶつかりながらでも、自分らしい人生を歩んでほしい。今のままのあなたでいいんだよ」

「大変なことがあっても／あきらめないで／未来の自分がくじけないように／歌おう／頑張れ／頑張れ

(一年間にわたり毎月掲載してきた企画は今回で終わります。四方きつきが担当しました)

# ありがとう 紡いで歌に